

山形の生コン協組と圧送協 連携して緊急対応

山形中央生コンクリート協同組合（渡邊英一理事長）と山形県コンクリート圧送協会（佐藤隆彦会長）は8月31日に山形霞城公園内で行われた令和元年度山形県・市合同総合防災訓練に参加した。防災訓練には市内の自主防災組織や関係機関など約70団体（約1,700人）が参加した。両団体の参加は、昨年9月1日の防災の日に山形市内で行われた防災訓練に続いて2度目となる。

山形中央協組と山形県圧送協会は、2017年に山形市と、2018年に天童市と「災害時における消防活動応援に関する協定」を締結した。圧送協会を交えた協定締結は全国初のこと。今年度の防災訓練は大規模な震災発生により、①倒壊した建物の中から被災者を救助する②火災が発生するが、人命救助を優先するため消火活動に手が回らない③消火栓が破損し水利確保が困難になる④民間の協定団体に消火活動を要請する、などを想定して行われた。これを受けて山形中央協組はミキサー車で水を4,000ℓ運び、山形県圧送協会はその水をコンクリートポンプ車（36mブーム車）で放水した。コンクリートポンプ車のブーム先端から消防用ノズル（セフカンソー）を使って放水訓練を行うのは全国で初の試みとなった。

訓練終了後に渡邊理事長は「災害は起きないことが一番だが、万が一の時には少しでも多くの県民の命を守る体制が整った」、佐藤会長は「今回の訓練で両団体の連携作業が災害には大変有効なことが証明された。いざという時には両団体が一丸となって消火活動にあたる」と述べた。